

●平成 29 年度

1. 学会発表・講演会

- (1) 清水淳一、吉原正和、有野徹、中田順子ほか：当院における腎機能低下患者に対するメトホルミン投与の実態調査, 第 55 回関東甲信越地方会, 2018.1.
- (2) 中村仁美、本濱諭、清水淳一：高齢者における酸化マグネシムの適正使用調査, 第 11 回日本腎臓病薬物療法学会, 2017.10.
- (3) 吉原正和、清水淳一ほか：メトホルミン、シタグリブチンを第一選択薬とした症例における腎機能への影響, 第 6 回日本くすりと糖尿病学会, 2017.9.
- (4) 清水淳一：糖尿病患者さんと私 支えてくださった先生方, 第 6 回日本くすりと糖尿病学会会長講演, 2017.9.
- (5) 清水淳一：患者さんを含めたチームワーク・ネットワークー薬剤師の立場からー, 第 24 回全国済生会糖尿病セミナーシンポジウム, 2017.8.
- (6) 鈴木知則、安達晶子、間宮伸幸、清水淳一：当院における Opioid 鎮痛薬に対する支持療法の使用状況, 第 11 回日本緩和医療薬学会, 2017.6.
- (7) 梅澤元紀、間宮伸幸、清水淳一：糖尿病合併 nab-PTX 投与患者における末梢神経障害の発現状況調査, 第 6 回日本臨床腫瘍薬学会, 2017.3
- (8) 吉原正和：静脈血栓塞栓症と抗凝固薬に対する当院薬剤師の取り組み, INNOVATE program Bayside 2018, 2018.3.
- (9) 鶴岡翔太：当院における PFM での術前中止薬の対応について, 第 6 回多施設若手薬剤師研究会, 2018.2.
- (10) 間宮伸幸：バランスト・スコアカードによるマネジメントと戦略策定, 東京都病院薬剤師会ファーマシーマネジメント小委員会, 2018.1.
- (11) 間宮伸幸：曝露対策合同ガイドライン発刊後における当院での取り組み, 城南地区オンコロジーセミナー, 2017.11.
- (12) 清水淳一：おくすりとうまく付き合うために知っておきたいこと～糖尿病薬を中心に～, 東京内科医会市民セミナー2017, 2017.10.
- (13) 清水淳一：糖尿病のインスリン治療 ～私はこう考えます～, 第 8 回庄内薬剤師糖尿病講演会 2017.6.
- (14) 中田順子：残薬を減らしましょう, あかばね会勉強会, 2017.4.

2. 雑誌発表等

- (1) 間宮伸幸：がん診療連携拠点病院薬剤師研修会, 都薬雑誌 Vol.40, No.3, 13 (2018)
- (2) 鶴岡翔太：処方箋 (128) ガイドラインに基づいた循環器領域の処方鑑査, 東京都病院薬剤師会雑誌 67, 23 (2018)
- (3) 清水淳一：「日本くすりと糖尿病学会」が認定制度で目指す薬剤師像, 糖尿病ケア Vol.14, No.11, 1037 (2017)

3. 書籍

- (1) 清水淳一 (分担執筆)：今日の治療指針 2018 年版 (福井次矢・高木誠・小室一成総編集), 服薬指導・

薬剤情報（本態性高血圧症，低血圧症，高齢者の糖尿病，副甲状腺機能亢進症），医学書院，356，358，720，761-762（2018）

- (2) 清水淳一（分担執筆）：治療薬ハンドブック 2018 年（高久史磨監修），薬剤リスト編，じほう（2018）
- (3) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2018 年 3 月版，じほう（2018.3）
- (4) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2017 年 9 月版，じほう（2017.9）

●平成 28 年度

1. 学会発表・講演会

- (1) 長谷川晃一ほか：当院における AST(Antimicrobial Stewardship Team)活動によるアウトカムの検討～輪(和)の心を持った支援への薬剤師の役割～，第 64 回日本化学療法学会西日本支部総会，2016.11.
- (2) 本濱諭、清水淳一ほか：CKD 教育入院患者におけるプレアボイド活動の実態調査，第 10 回日本腎臓病薬物療法学会，2016.11
- (3) 清水淳一：認定制度で目指す薬剤師像，第 5 回日本くすりと糖尿病学会 2016.10
- (4) 鶴岡翔太、面来晃二、清水淳一ほか：有害事象自発報告データベースを用いたデータマイニングによる経口抗凝固薬と臓器別出血リスクに関する関連性の解析，第 26 回日本医療薬学会年会，2016.9
- (5) 間宮伸幸、有野徹、清水淳一：低クレアチニン値におけるカルボプラチン投与量と血小板減少に関する調査，第 26 回日本医療薬学会年会，2016.9
- (6) 長谷川晃一、清水淳一ほか：注射薬の患者別セットにおける SPD との協働—SPD によるピッキングミスの防止対策への取り組み—，第 26 回日本医療薬学会年会，2016.9
- (7) 篠村英明、間宮伸幸、清水淳一，DPP-4 阻害薬が ERCP 後の膵炎発症に及ぼす影響，日本病院薬剤師会関東ブロック第 46 回学術大会，2016.8
- (8) 清水淳一：糖尿病薬～私はこのように説明しています～，第 4 回糖尿病療養指導学会，2016.7
- (9) 鈴木知則、間宮伸幸、清水淳一：当院におけるタペンタドール錠の使用状況，第 10 回日本緩和医療薬学会，2016.6
- (10) 清水淳一ほか：非アルコール性脂肪肝合併 2 型糖尿病患者に対する SGLT2 阻害薬の影響について，第 59 回日本糖尿病学会 2016.5
- (11) 川久保早紀：プレアボイド推進にむけた活動報告，東京都病院薬剤師会プレアボイドフォーラム東京 2017，2017.3
- (12) 井太家礼佳：新人への病棟業務の教育，薬務薬制部病棟業務整備小委員会研究会，2017.2
- (13) 間宮伸幸：リーダー育成 どこから取り組む?! がん薬物療法における曝露対策～組織に働きかけるために必要なこと～，日本がん看護学会ガイドライン委員会 2016.10
- (14) 間宮伸幸：抗がん薬職業曝露に対する正しい理解と組織的対応の必要性，オンコロジー研究会，2016.10
- (15) 川久保早紀：入院患者における内服薬管理，第 2 回多施設若手薬剤師研究会 2016.8
- (16) 長谷川由佳：CAPD 患者へ SGLT-2 阻害薬を投与した一例，多施設若手薬剤師研究会，2016.4

2. 雑誌発表等

- (1) 清水淳一：あなたの薬はどこで効く?，糖尿病ケア 13，No.5，404（2016）
- (2) 清水淳一：糖尿病薬～私はこのように説明しています～，DM Ensemble Vol.5 増刊号，35（2016）

3. 書籍

- (1) 清水淳一（分担執筆）：今日の治療指針 2017 年版（福井次矢・高木誠・小室一成総編集），服薬指導・薬剤情報（本態性高血圧症，低血圧症，高齢者の糖尿病，副甲状腺機能亢進症），医学書院，356-357, 359, 706, 749（2017）
- (2) 清水淳一（分担執筆）：治療薬ハンドブック 2017 年（高久史磨監修），薬剤リスト編，じほう（2017）
- (3) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2017 年 3 月版，じほう（2017.3）
- (4) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2016 年 9 月版，じほう（2016.9）
- (5) 清水淳一ほか：糖尿病における multimorbidity, 南山堂（2017）

●平成 27 年度

1. 学会発表・講演会

- (1) 間宮伸幸：チームで取り組むがん薬物療法における曝露対策－ガイドライン発刊後半年の現状と課題－，第 30 回日本がん看護学会学術集会ガイドライン委員会研修シンポジウム，2016.2
- (2) 間宮伸幸：東京都済生会中央病院、がん研有明病院両薬剤部連携合同研究会における有用性の検討，第 25 回日本医療薬学会年会，2015.11
- (3) 清水淳一ほか：ビデュリオン皮下注用ペン補助具試作について，第 4 回日本くすりと糖尿病学会，2015.9
- (4) 清水淳一：日本くすりと糖尿病学会認定薬剤師制度の目指すもの，第 4 回日本くすりと糖尿病学会シンポジウム，2015.9
- (5) 清水淳一ほか：ビデュリオン皮下注用 2mg ペン補助具試作について，第 22 回全国済生会糖尿病セミナー，2015.8
- (6) 清水淳一：糖尿病領域における新たな認定制度について，日本病院薬剤師会関東ブロック第 45 回学術大会シンポジウム，2015.8
- (7) 清水淳一ほか：イブラグリフロジンの脂質代謝と肝機能に対する影響について，第 58 回日本糖尿病学会，2015.5

2. 書籍

- (1) 清水淳一（分担執筆）：今日の治療指針 2016 年版（福井次矢・高木誠・小室一成総編集），服薬指導・薬剤情報（本態性高血圧症，低血圧症，高齢者の糖尿病，副甲状腺機能亢進症），医学書院，402, 404, 755, 796（2016）
- (2) 清水淳一（分担執筆）：治療薬ハンドブック 2016 年（高久史磨監修），薬剤リスト編，じほう（2016）
- (3) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2016 年 3 月版，じほう（2016.3）
- (4) 清水淳一ほか：写真付／服薬指導 CD-ROM 2015 年 9 月版，じほう（2015.9）